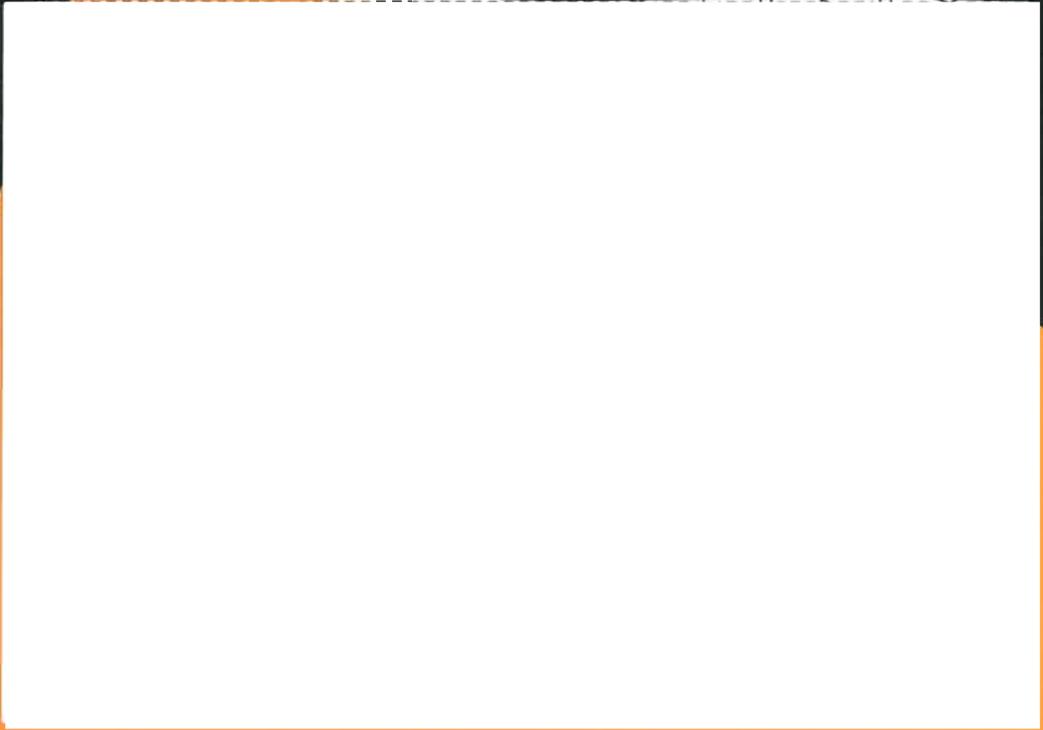


**Sketch
Book**



南海トラフ地震が発生したら？

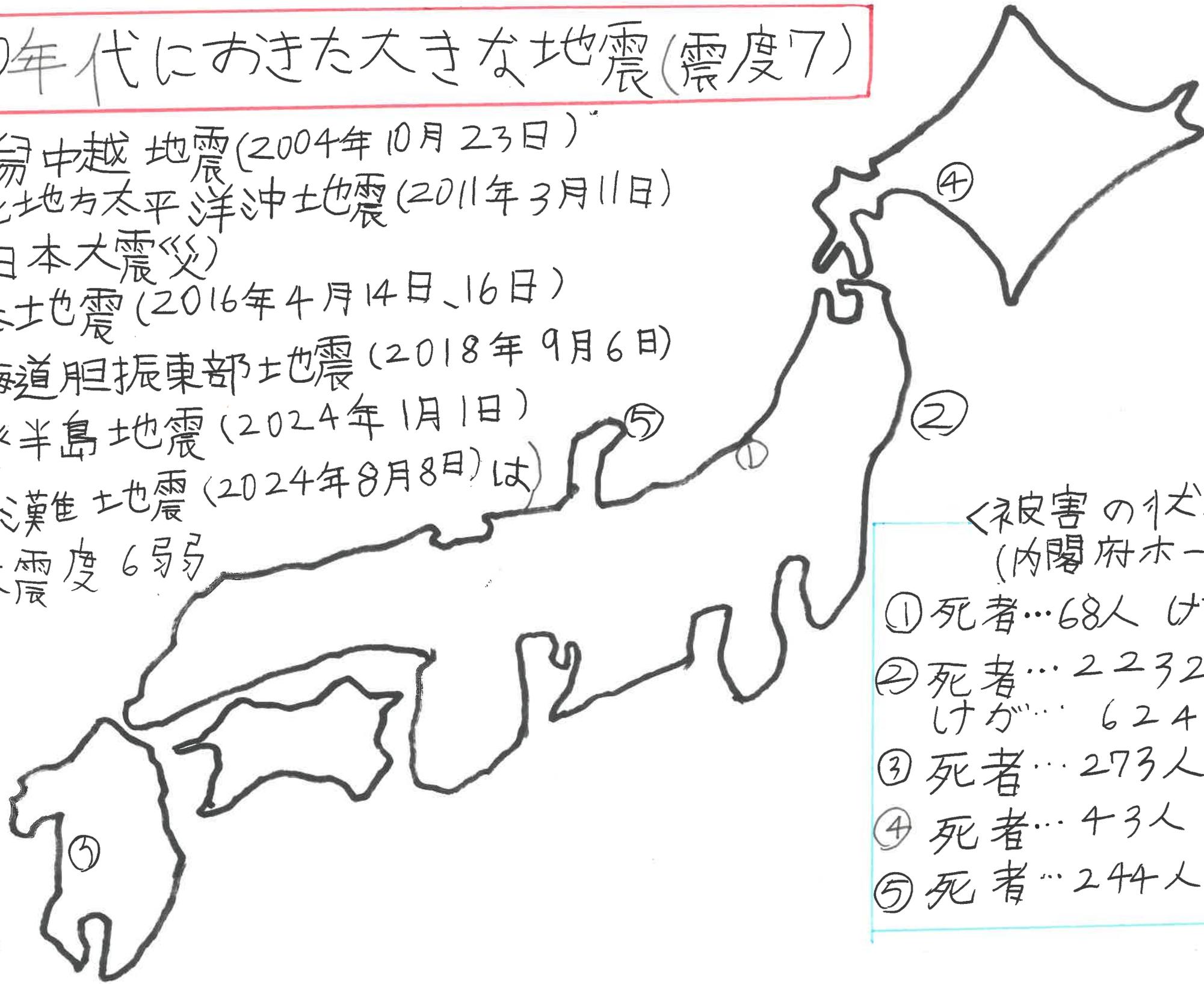
～私の家の防災対策は大丈夫か調べよう～

8月8日午後4時43分にけい帯電話の緊急地震速報が鳴った。私が住んでいる西条市は震度2で少しゆれたくらいだった。そのあとから南海トラフ地震が発生する可能性がふだんより高まっているので備えを確認しようというニュースをよく見るようになった。私の家は大丈夫か調べてみよう。

2000年代におきた大きな地震(震度7)

- ①新潟中越地震(2004年10月23日)
- ②東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)
(東日本大震災)
- ③熊本地震(2016年4月14日、16日)
- ④北海道胆振東部地震(2018年9月6日)
- ⑤能登半島地震(2024年1月1日)

(※日向灘地震(2024年8月8日)は
最大震度6弱)



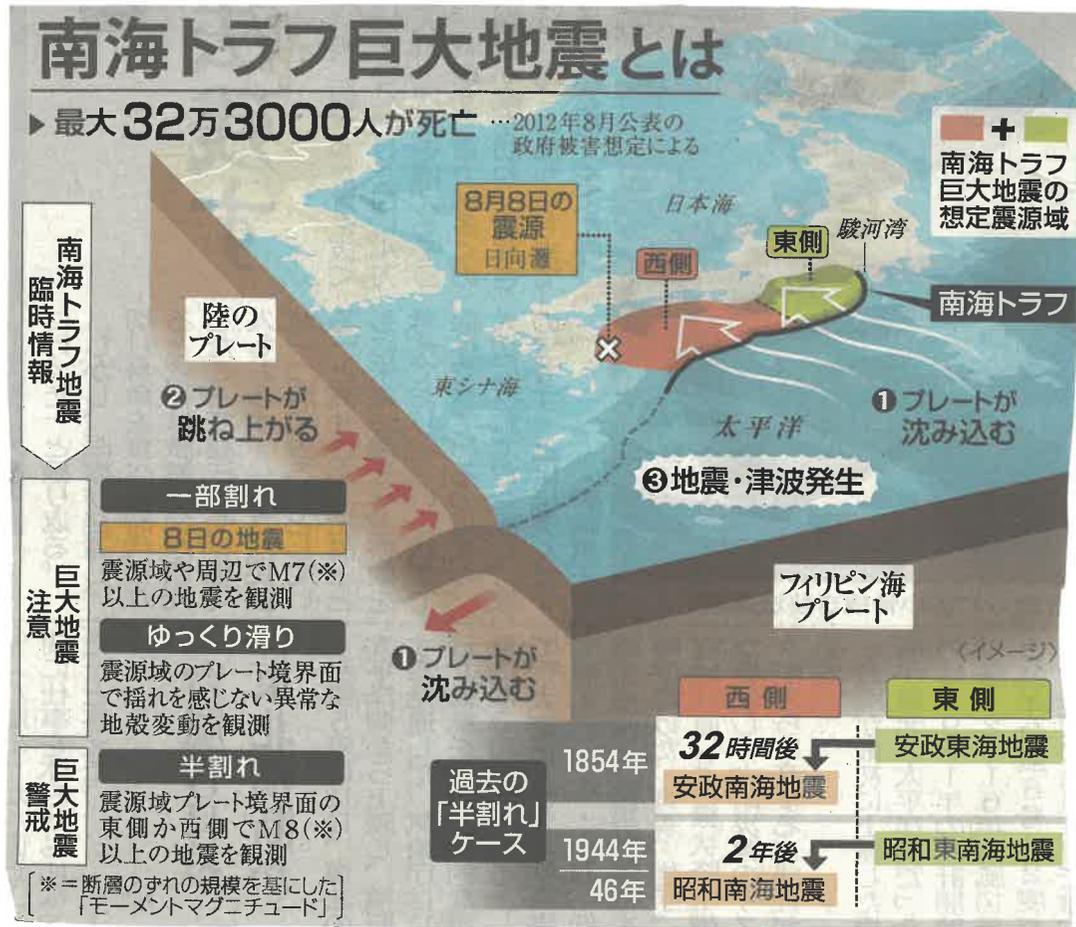
<被害の状況>
(内閣府ホームページ参考)

- ① 死者...68人 けが...4795人
- ② 死者...22325人
けが...6242人
- ③ 死者...273人 けが...2809人
- ④ 死者...43人 けが...782人
- ⑤ 死者...244人 けが...1300人

〈地震のゆれの目安〉 (気象庁ホームページ参考)

震度	人の様子	物の様子
0	人はゆれを感じない	地震計にゆれが記録される
1	屋内で静かにしていると、わずかにゆれを感じる人もいる	
2	屋内で静かにしている人の大半がゆれを感じる	電灯などフリ下げた物がわずかにゆれる
3	屋内にいる人のほとんどがゆれを感じる 眠っている人の大半が目覚ます	食器が音を立てることがある 電線が少しゆれる
4	歩いている人もほとんどがゆれを感じる 眠っている人のほとんどが目覚ます	電灯などフリ下げた物が大きくゆれる 電線が大きくゆれる
5弱	大半の人が小布いと思ひ、物につかまりたいと感じる	たなから物が落ちることがある。 固定していない家具が移動することがある
5強	大半の人が物につかまらないうと歩くことが難しくなる	たなから落ちる物が多くなる 家具が倒れることがある
6弱	立っていることが難しくなる	固定していない家具の大半が移動し、倒れてくることある。
6強	立っていることができない はたかないと動けないう	倒れる家具が多くなる ガラスやタイルが割れたり、落ちたりする
7	飛ばされることもある	ゆれに弱い建物はかたむいたり倒れたりする

南海トラフ巨大地震って何だろう？



駿河湾(静岡県)から日向灘(宮崎県)沖の海底にある深さ約4000mのみぞが南海トラフ

陸側のユーラシアプレートの下に海側のフィリピン海プレートがもぐりこむように動いている(1年間で3~5cmくらい)

もぐりこむ時にひずみがたまっていき、がまんできなくなった時にユーラシアプレートが元にもどろうとして大きい地震がおこる



南海トラフ巨大地震の発生

(2024年8月12日愛媛新聞朝刊から) 切り抜き

南海トラフ巨大地震がおきるとどうなる？

- 最大震度7の地震が発生する
 - ・家やブロックベイがこわれる
 - ・窓ガラスが割れる
 - ・家具が倒れたり物が落ちたりする
- ・停電になる
- ・断水になる
- 最大で高さ34mの津波が発生する
- 山間部ではがけくずれなどの土石災害が発生する
- 最大で32万3千人が死亡する

<愛媛県の被害予想>

- ・死者…1万2千人
- ・建物の倒壊…19万2千軒
- ・停電…71万軒
- ・断水…120万人

私の家の防災対策を調べよう

〈家が建っている場所の周辺の状態〉

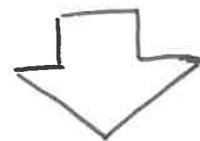
西条市の防災マップで家が建っている場所を調べた

・土石災害の警戒区域ではなかった

・津波の浸水想定区域ではなかった

・家からひなん場所に行く時に通る予定の道が一部

土石災害警戒区域の中に入っていた



・家が建っている場所は災害の警戒区域には入っていないことがあかって安心した。でも、警戒区域に入っていなかったら絶対に安全だというわけではない。

・今、決めているひなん経路が通れない時に

どの道を通ってひなんするか家族と話し合った方が

いいかもしれない

〈家の中の防災対策〉

していること

- 戸だなの上のびらは大きくゆれると自重でロックがかかる
- 窓ガラスが割れても飛び散らないようにフィルムをはっている
- 5年間保存できる水がある
- 非常食がある
- 防災リュックがある
- 玄関の近くには物をおかない
- 机やテーブルのあしにすべり止めのシートをしいている

見直した方がいいこと

- 本だなやタンスの固定ができていない
- 非常食が少ない
- 防災リュックが1つしかない
- 寝室のドアの横にタンスがある(倒れるとドアが開けなくなる)
- 本だなの上の方に重いものがある(下の方が軽い)
- すべり止めシートの効果が弱くなっているところがある

家の中のことを調べて、対策していることを私が知らなかったこともあった。対策していても足りなかったり、時間がたつて対策の効果が弱くなっているところがあったので、時々確認をしないといけないと思った。

私と女末の防災グッズを用意しよう

- ・持ち運ぶがやすいように防災ボトルを作った
- ・ボトルにするゆゑ女末(6才)は自分でふたが開けられなかつた
中身も取り出しにくそうだったので女末の分はポーチにした
(私の防災ボトル)



- ・緊急連絡先カード
(名前、生年月日、住所、血液型)
(両親の名前、連絡先の電話番号)
- ・食料(おかし)
- ・携帯トイレ
- ・エチケット袋
- ・小銭入れ
- ・糸半そうこう
- ・ペンライト
- ・ウェットティッシュ
- ・ホイッスル
- ・マスク

- ・500mlのボトルに必要なと思う物を入れた。
- ・想像していたよりたくさんの物を入れることができた。
- ・ペンライトとホイッスルがすぐに使えるように一番上に入れておいた



(妹の防災ポーチ)



- ・緊急連絡先カード
- ・食料(おかし)
- ・携帯トイレ
- ・絆そうこう
- ・ペンライト
- ・ウェットティッシュ
- ・ホイッスル

○妹はまだ一人でお金を使えないので
小銭入れは入れなかった

○緊急連絡先カードには私のカードと同じ
ことを書いて、妹が読めるように、ふりがなも
書いた。家族の写真を一糸者に入れた
カードをなくさないように首からぶら下げ
れるようにした

○私と同じ形のホイッスルにすると上手に
鳴らせなかったため、いつも遊んでいる
おもちゃと同じ形のホイッスルにした



防災ボトル、ホーチカだけで足りない物を追加して防災リュックを作った
 妹のリュックは重すぎると持って歩けなくなるので水や食料など重い物は
 少なめにした。へらした分は大人用のリュックに入れた。
 全部入れてから持って歩けるか確認した



(私のリュックに入れた物)

- ・作った防災ボトル
- ・水
- ・食料
- ・きかえ
- ・軍手
- ・タオル
- ・アルミブランケット
- ・ビニール袋
- ・トランプ
- ・おり糸



(妹のリュックに入れた物)

- ・作った防災ホーチ
- ・水
- ・食料
- ・きかえ
- ・お気に入りのぬいぐるみ
- ・タオル
- ・アルミブランケット
- ・ビニール袋
- ・おえかきセット

たりない防災対策を直してみよう

× 本だな、タンス、家具の
固定ができていない



× 本だなのバランスが悪い

× 非常食が少ないかも

× はきものが玄関にしかない

倒れないように固定する

→ ○ 弱くなっているすべり止めシートを
はりかえる



→ ○ 図 かんなど重い物を下にして
上の方は軽い物にする

→ ○ 非常食の他に缶づめやレトルト
食品を買い置きしてふだんの
料理に使ったり補充したりして
いるとお母さんが言っていた
ローリングストックというらしい

→ ○ 古いくつを防災対策用にする
ふだんからスリッパをはくようにする
新聞紙でもスリッパを作る

新聞紙でスリッパを作ってみよう

防災対策について調べていると、新聞紙でスリッパが作れるという情報をみつけた。どんな感じなのか作ってみた。

(感想)

はいてみると思ったよりも丈夫で歩きにくくもなかった。すあしよりは新聞スリッパをはいた方があたたかくて、物をふんでも痛さを感じにくかった。

新聞紙を2枚にした方がもっと良かった。本当のスリッパをはいているみたいだった。

3枚にすると作りにくくてごめごめしたので2枚で作るのがいいかもしれない。

妹のように足が小さい子は新聞を半分に折って作るとちょうどいいサイズで作れた。



(女末)

(私)

まとめ

日本は周辺にユーラシアプレート、フィリピン海プレート、太平洋プレート、北アメリカプレートの4つのプレートがあって、境界部分がたくさんあるため地震が多く発生する

南海トラフ巨大地震は、30年以内に70~80%の確率で発生するといわれていて、愛媛県でも大きな被害が想定されている

「明日巨大地震がおきます」と正確なお知らせがあるなら、それから準備をしてもまああうかもしれないけれど、それはわからないので「いつおきてもいいように準備をしておかないといけない」

今回の防災学習をしたことで私の家の防災対策について確認して家族と話しあったり、たりないところを見直したりすることができた
そして、ひなん場所までの道の確認をしてなるべく安全なひなん経路を2つ決めることができた

防災対策の見直しは今回だけでお知らせするのではなく、いつ災害がおきても大丈夫なようにこれからも定期的に家族で見直していくようにしたいと思う